



表紙 [アクリルたわし]
村上智佳子さん作

本弘寺別院

こども仏教

ブッダがせんせい

みんなちがって みんないい

これは金子みすずさんの『わたしと小鳥とすと』という詩の中にある言葉だよ。きみは、みんなと同じじゃないと不安になったりみんなができることができなかつたりすると、自分はダメだって思つたりしないかな。反対に、できない子のことをバカにしたりしたことがないかな。仏さまの教えの中に、こんな言葉があるよ。『青色の花は青色の光、黄色の花は黄色い光を、赤色の花は赤色の光を、白色の花は白色の光をかがやかす』これはね、青色の花が黄色い光をかがやかせるんじゃなくて、青色の光を一生懸命かがやかせれば良いんだよっていう教えなんだ。だから、きみはきみのままでいいんだよ、他の子と比べる必要のない『いのち』を生きているということなんだ。勉強ができる子、できない子、運動が得意な子、苦手な子、絵が上手な子、下手な子がいるように、みんな違つて、みんないいんだよ。みんなも自分の花を一生懸命に咲かせてね。

『仏説阿弥陀経』というお経のなかに、「青色
青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光」という言葉があります。SMAPの『世界につつだけの花』を作詞した榎原敬之さんがお寺に訪れた際に住職からこの一節の話を聞き、歌にされたそうです。この歌のように、私たちは、世界につつだけの花です。あなたはあなたのままで良いのです。★法事や法要時によく『仏説阿弥陀経』を読經しますので、気にしてみてください(^^♪ 坊守

朝夕はまだまだ寒い日が続りますが、ようやく春の訪れを感じるようになりました。暖かい陽気は芽吹きと同時に身体にも変調をきたすことがあります、皆さまお変わりございませんでしょうか。

さて、2月21日(日)に靈園にて『ご葬儀なんでも相談会』を行いました。講師に一級葬儀ディレクターの資格を持つ方をお招きし、葬儀の流れ・費用・家族葬の長所短所などをご説明いただきました。当日は、20名を超える方がお越しください、ご葬儀に関する様々なお悩みをお聞かせいただきました。

今回の相談会を通して、お寺の役割、使命を改めて痛感いたしました。

そのためにも、この寺報が一方的なお寺からの情報発信ではなく、手に取ってくださった方とのコミュニケーションの手段となるような誌面を作成していきたいと思っております。

ぜひ、ご感想・疑問なんでも構いませんので、お寄せくださいませ!!



ご葬儀相談会の様子です。皆さんのお悩みご不安は、十人十色でしたが、終わった頃には解決、安心に変わったようでした。次回相談会の日時・テーマは、靈園の掲示板にてご確認ください。(お彼岸期間前に掲示します)

春彼岸法要のお知らせ

当寺では以下の日程で法要を厳修いたします。
お誘い合わせの上、ご参詣ください。

日時 3月20日(日)
受付 13:30~ 法要 14:00~15:00

駐車場の台数に限りがありますので、恐れ入りますが、
公共の交通機関をご利用くださいますよう
お願ひいたします。

門徒まめ知識

「えっ!? 北枕は健康法?」

北枕とはお釈迦さまのお亡くなりになった時を真似て亡くなった時は北枕にするという習慣からきてます。また亡くなった人と同じにするなど縁起が悪いとよく聞きます。

しかしお釈迦さまは日常的に北枕でした。頭北面西右胸(ずほくめんさいゆきょう)といい、頭は北、顔は西、体は右を向いて休まれていました

我々も頭寒足熱といって頭は冷やし足は温めますまた、心臓は身体の中心より左にあり胃袋は右下に出口がありますよね。家の中でも北側は寒く南側は温かい。また、私が子どもの頃お腹が痛くなったらには祖母から右を下にして休みなさいとよく言われたものでした。

ですから、北枕は縁起が悪いものではないのです。私は二十年ほど前から北枕で休んでいます。

どっぶり仏教 ~住職の重すぎる仏教ばなし~

「明日ありと思う心の仇櫻 夜半に嵐の吹かぬものかは」

私はこの時期になると必ずこの歌を思い出します。これは、日もとっぴり暮れた頃に比叡山へ辿り着き、夜も更けたので明朝より出家の儀式を執り行おうと言われた親鸞聖人が詠まれた歌です。この時、九歳でした。「仏法には明日は無くそうろう」という言葉がありますが、幼くして父を亡くし、八歳で最愛の母を亡くした聖人の眼には、この世界はどの様に映っていたのでしょうか。その親鸞聖人が晩年には「本願力(ほんがんりき)にあいぬれば空(むな)しく過(す)ぐる者(もの)ぞなし」と詠われています。

私が仏教と向き合うようになったのは、今から十五年ほど前からです。正直に言って仕事としてではなく、一人の人間として道を求めていました。たしかに僧侶という立場ゆえ「死」というものが日常にあるお蔭でしょう、自分の死というものが常に意識の中にはあります。ただ死というものを体験したことは当然なく想像するしかありませんが、自分の死というものを考えたときに、人生というものがいよいよ問題になりました。最後の時(意識があればの話ですが)後悔はしたくない。後悔の塊みたいな性格の私でしたので、最後の局面で人生を振り返り後悔してしまったら、それはもう取り返しがつきません。そんな風にジタバタしていた頃に、たまたま私には、この世界とそこに生きる自己というものをただひたすらに求められた方が居てくださいました。それが親鸞聖人という方です。

死が問題になったとしても最後の日は何時なのかは誰にも分りません。ですから結局は日々その瞬間に納得が出来ているのかということでした。こんな言葉があります「人間の物差し損か得か、仏の物差し嘘か真か」。損か得かの物差しが価値基準で物事を判断している日々は結果に関係なく人生に空しさを感じます。そんな時にはきっと「それで死んでいいか」と心の奥底から聞こえてくるのです。基本的には人間には損か得かしかありません。そこに聞こえてくる「声」が仏さまの呼び声なのでしょう。

円満解決している世に円満解決出来ない私が生きている。そしてそれは、解決出来ぬままに本願に願われている世界です。少し難しい表現をさせていただきましたが、こんなことを少しづつ語らせて頂くなかに皆さんと共にお念仏を味わっていきたいと思います。

合掌 釋宣弘

お作法のはなし~お仏飯~

浄土真宗では、朝一番に炊き上がった白米を先ずお仏壇にお供えします。これを「お仏飯(ぶっぱん)」といいます。

お仏壇まで運ぶ時は、小さなお盆にお仏飯を載せ、自分の息がかからないよう、口より高く掲げてお持ちします。

本来は、お昼にお下げしますが、ご飯が固くなってしまい美味しい美味しくいただけないことが多いですので、私たちも大きな法要以外は、朝のお勤めの後、朝ご飯でいただいてしまいます。

また、毎朝ご飯を炊かない方は、炊いた時にお供えしてください。

お仏飯は、ご飯を円柱形に盛ります。盛槽(もっそう)を使うと便利ですよ。

盛槽



筒の中にご飯入れて、突き出し棒でご飯を上から押します。お寺ではステンレス製のものを使用しています。仏具店などで、だいたい1,200円~2,000円で販売されています。

年間行事

1月1日	修正会
3月春分の日	彼岸法要
8月15日	お盆法要
9月秋分の日	彼岸法要
11月18日	報恩講
定期法話	
毎月18日	11時 お寺
毎月第一日曜 14時 靈園	

本弘寺別院
秦野市渋沢 1398-12
TEL: 0463-82-9577
honkouji.wakka@gmail.com